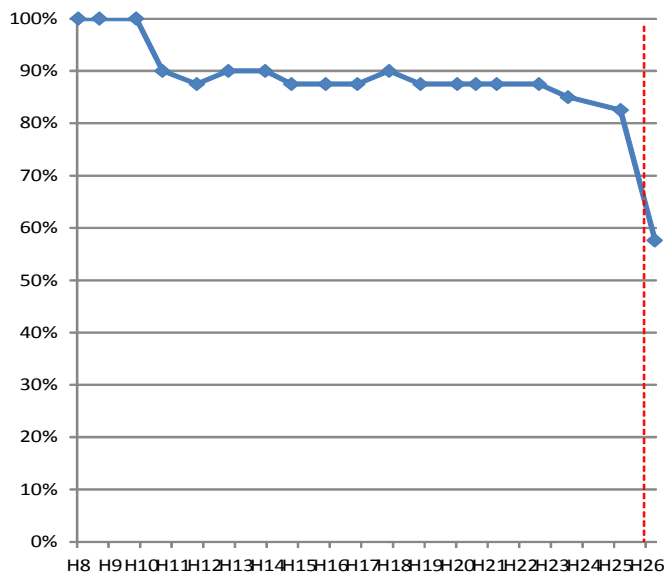


樹種名	ウバメガシ	
科目	ブナ科	
学名	<i>Quercus phillyraeoides</i>	
分布	神奈川県以南、四国、九州、琉球列島に分布する。	
樹木特性	半陰樹であり、ふつうは海岸低木林として群生するが、まれに内陸までみられる。ウバメガシ林の林床は乾燥し、下草は乏しい状況となる。	
用途	材が堅く本種からは備長炭が作られる。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	66本 / 0.02ha (3,000本 / ha)	
特徴	<p>【樹形】 常緑小高木で、高いものだと20m近くまで成長するが、通常は5~6m程度の低木が多い。樹形は、ごつごつしていて、樹皮には独特の縦方向のひび割れが出る。若枝には黄褐色の柔らかい毛が密生する。 葉は倒卵形で長さ3~6cm、やや表側に盛り上がっており、周辺には鋸歯がある。また、葉はやや厚くて硬く、表面には強い照りがある。雌雄同株。堅果(どんぐり)は長さ2cm前後で楕円形、色は褐色。 材は緻密で極めて硬い。比重が大きく、水に入れると沈む。ウバメガシは日本産の常緑のカシ類では特に丸くて小さく、また硬い葉を持つカシである。海岸や岩場に多く、しばしば密生した森を作る。日本の暖地では海岸林の重要な構成樹種の一つである。また乾燥や刈り込みに強いことから街路樹などとしてもよく使われ、その材は密で硬く、特に備長炭の材料となることでよく知られている。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。植栽から18年が経過した現在の平均樹高は8m程度まで成長している。	
被害	コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。	

ウバメガシ 現存率



【現存率】

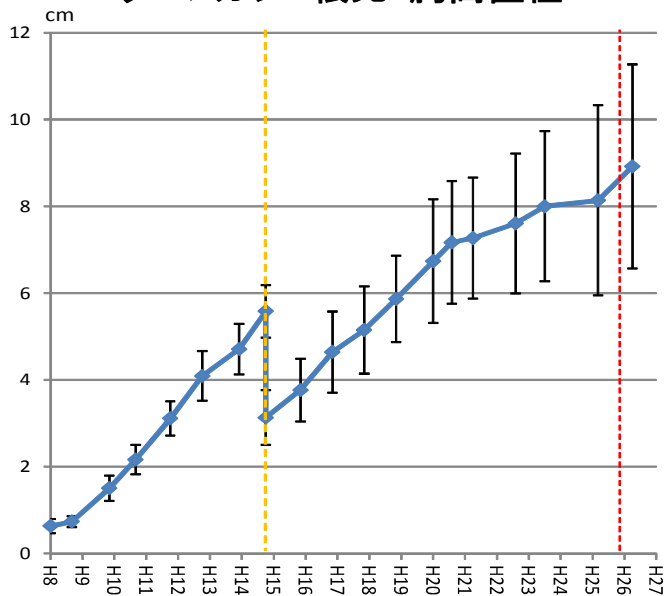
植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。

林内の照度調整を図るため平成21年度、平成24年度に本数調整伐を実施した。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は57.6%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ウバメガシ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

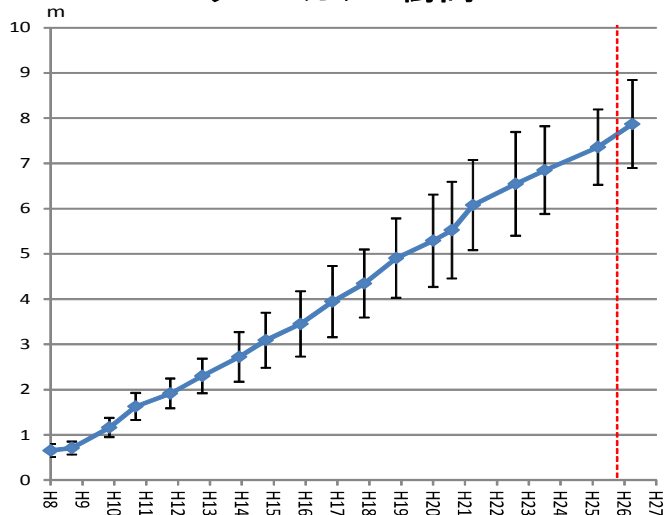
順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は、8.92 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ウバメガシ 樹高



【樹高】

順調に成長している。

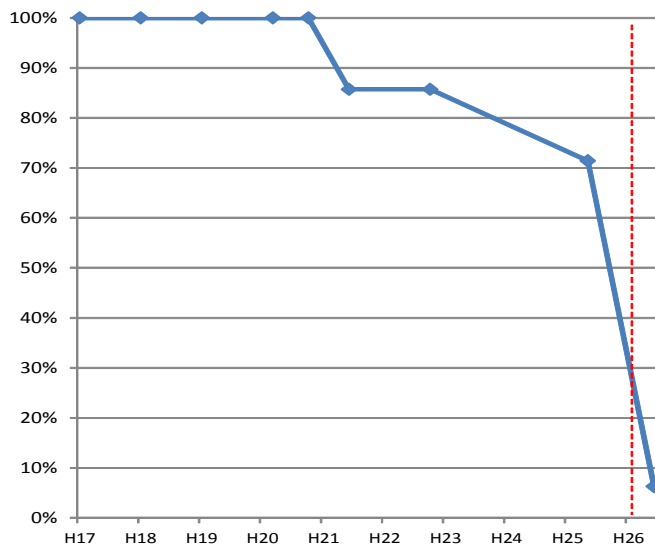
平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は、7.87mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



樹種名	ウメ (品種：ブンゴウメ)	
科 目	バラ科	
学 名	<i>Prunus mume var. bungo</i>	
分 布	中国が原産地という説が有力であり、日本には古くから導入された。台湾、中国南部に分布する。	
樹木特性	陽樹であり、普通は庭や畑で栽培されている。 ウメは萌芽能力が高く、剪定しないと樹形・花つき・実つきが悪くなる。 発根性も高く、天然記念物のウメの中には、倒木したものが発根、または萌芽して成長したものもある。	
用 途	果樹として利用。	
植栽本数 (植栽密度)	80 本 (他樹種との混植)	
特 徴	<p>【樹形】 落葉小木で樹高は 10m 未満である。枝葉は太く丈夫である。小枝は紫色。葉の形質は母種に似ているが、大形である。花は淡紅色あるいはバラ色であるが、ときに白色のものもある。花柄は非常に短かい。花弁は円形でやや大形である。果実は大形である。熟すると黄赤色となり、赤褐色の斑点がある。野梅系・緋梅系・豊後系アンズ系の 4 系統あり、アンズ系は容易に交雑する。野梅系（やばいけい）の果実は小形であり、果実を利用する豊後系（ぶんごけい）（肥後系（ひごけい）とも呼ばれる）ではアンズとの交雑により大形化している。ただし、完熟しても果肉に甘味を生じることはない。花芽はモモと異なり、一節につき 1 個となるため、モモに比べ、開花時の華やかな印象は薄い。毎年 2 月から 4 月に 5 枚の花弁のある 1~3 cm ほどの花を葉に先立って咲かせる。花の色は白、またはピンクから赤。葉は互生で先がとがった卵形で、周囲が鋸歯状。果実は 2~3 cm のほぼ球形の核果で、実の片側に浅い溝がある。6 月頃に黄色く熟す。七十二候の芒種末候には「梅子黄（梅の実が黄ばんで熟す）」とある。梅には 300 種以上の品種があり、野梅系、紅梅系、豊後系の 3 系統に分類される。梅の実を採るのは主に豊後系である。</p>	
試験地での様子	普通苗を植栽し、平成 21 年度からウサギによる食害が多く見られる。	
被 害	ウサギによる被害が多い。	

ウメ 現存率



【現存率】

植栽後 4 年を経過してから、ウサギの被害により枯死が発生している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 6.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

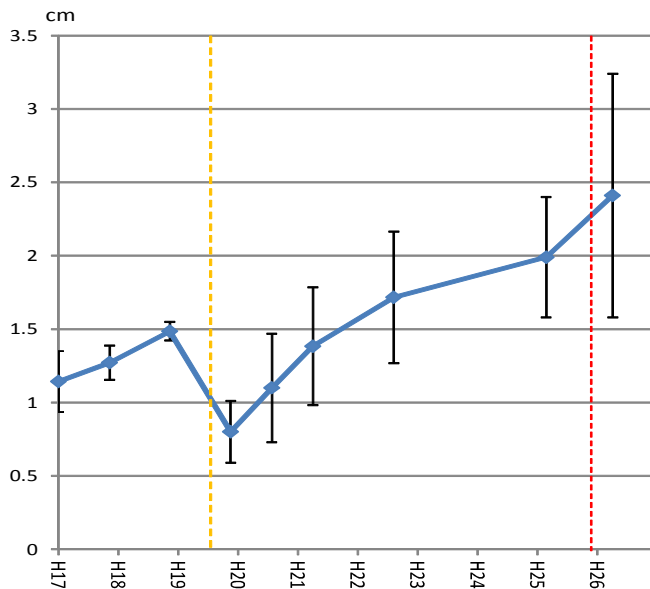


豊後梅の開花



竜狭梅

ウメ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

現存している樹木は順調に成長をしており、平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 2.41 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

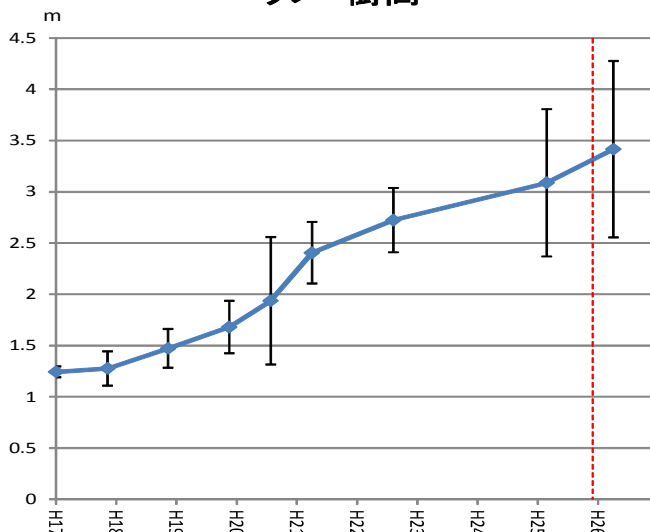
※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。



南香梅

白加賀梅

ウメ 樹高



【樹高】

現存している樹木は徐々に成長をしており、平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 3.42mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

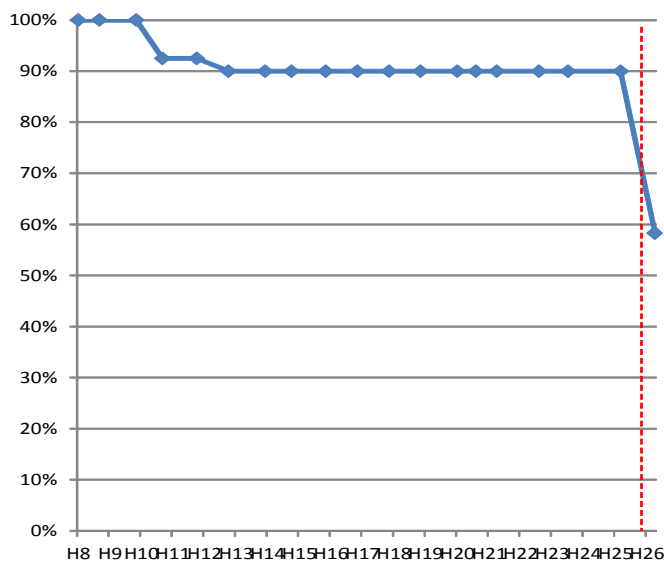
《プチ情報》

大和本草には、「日本にて豊後肥後より出て」とある。

江戸時代以降、花見といえどもっぱらサクラの花を見ることとされている。しかし奈良時代以前に「花」といえば、むしろウメを指すことの方が多かった。豊後梅とも肥後梅ともいわれる。豊後国でいうところのブンゴウメは、半八重白花のものである。この植物はウメとアンズ両形質をもっているため、ウメとアンズの雑種ではないかといわれる。

樹種名	ウラジロガシ	
科目	ブナ科	
学名	<i>Quercus salicina</i>	
分布	宮城県・新潟県以南から四国、九州、琉球列島に分布する。肥沃適湿な土地を好むが土壌層の薄いところでも生育できるため尾根筋・急傾斜地にも自生する。	
樹木特性	半陰樹であり山地斜面や下部の谷沿いに多い。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約 30 cm前後で萌芽本数は 10 本程度である。さらに、萌芽発生が見込まれる最大の切り株直径は約 40 ~ 50 cm程度である。	
用途	材は非常に堅く柾目に虎班、板目に柃目模様があって美しい。公園樹・建築・器具・楽器材。葉は生薬（胆石・腎臓結石）。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	72 本 / 0.02ha (3,000 本 / ha)	
特徴	<p>【樹形】 常緑高木で 20m 以上に達する。樹皮は暗褐色から灰色で、滑らか。葉は互生し、倒卵状~楕円状長楕円形、長さ 5~13cm、鋭尖頭で、葉縁に鋸歯を持つ。アラカシなどに比べて、鋸歯が鋭くとがるのが特徴。</p> <p>雌雄同株。花は穂状で 5 月から 6 月頃に咲き、雄花序は新枝の基部から下垂し、長さ 4cm 前後、褐色の軟毛を密生する。雌花序は新枝の上部の葉腋（ようえき【葉が茎と接している部分】）に付き、長さ 7mm 前後である。</p> <p>堅果（どんぐり）は広卵状楕円形-長楕円形、長さ 2cm 前後で他種よりも比較的細長い、色は濃褐色。</p> <p>人家の生け垣や社寺林に植えられる。</p> <p>葉の裏面ははじめ黄褐色の絹毛を密生するが、のちには蠟質を分泌し雪白色となる。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死が発生した。18 年経過した現在の平均樹高は 10m 程度まで成長している。	
被害	植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数：14 本)	

ウラジロガシ 現存率



【現存率】

植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害により枯死が発生した。

平成 10 年度以降の枯死は見られない。

林内の照度調整のため平成 18 年、20 年、21 年、24 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 58.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

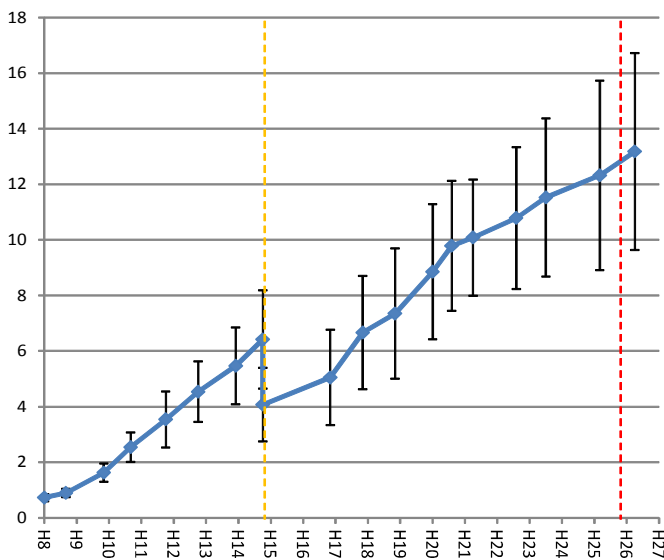
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 13.18 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ウラジロガシ 根元・胸高直径



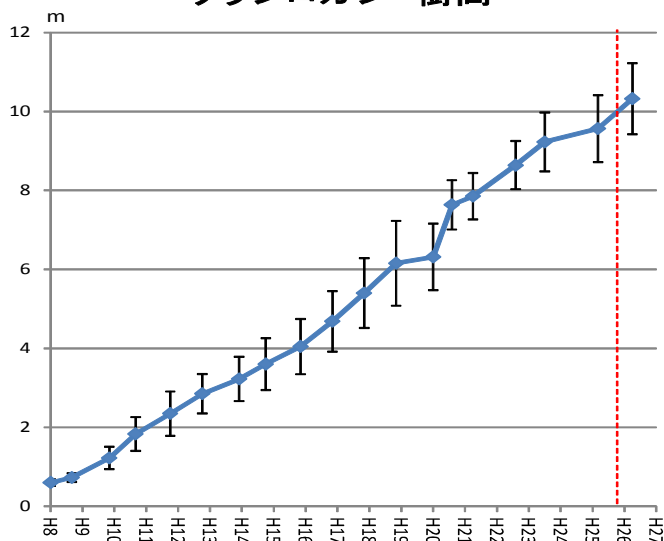
【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 10.32m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ウラジロガシ 樹高



《プチ情報》

葉を乾燥してお茶にして飲むと胆石や腎臓結石を溶かすという触れ込みで商品化されているとの情報もある。また、エキスは胆石・腎臓結石排出促進作用が確認され、医薬品としても流通しているとの情報もある。また、ウラジロガシを入浴剤として使用すると、切り傷・やけど・にきび等の肌荒れ・痔等に効果があるとも云われている。

葉の裏面に粉白色を呈す（これが和名の由来である）。